

一般ウイポプレイヤー  
&クソ強UGランク青汁  
漬けウマ娘トウカイテ  
イオ一&ポソコツオリ  
      ジナルウマ娘

遊戯王☆プリティ-5Ds

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

3つの魂が融合した結果変な幽霊が湧いてきた話、尚その幽霊は癖が強い模様。

# 目次

融合召喚！	1
憑依装着！	9
憑依覚醒！	19



# 融合召喚！

—現代—

よっしゃあ！イージーゴア産駒の超大物k t k r！これで後継種牡馬も安泰やでえ  
…ふおお!? トウカイテイオーの産駒も超大物やんけ！勝ち申したわ…これでどっちも  
成功すれば種付け料大幅アップ！系統樹立まで後少しや！

勝ったなガハハ！

—1時間後—

ホアアア!? 何故だ!? 何故どっちも長距離になるんだ!? てかさうならんやろ血統的に  
!? まさか突然変異!? バクシンオーの逆パターンをここで引くのかよ!

アッアッアッアッ! 今年逃したら系統樹立出来ないいいい! 嫌アアアア!?

あつ、脳の血管切れたかも…

…バタンきゅー…

—トレセン学園—

契約解除…?う、嘘だよねトレーナー?

「育成に失敗したから契約解除だ、何度も同じ事は言わないぞ」

何でそんな事言うんだよトレーナー! 大成功だったじゃん! ホーフルも皐月賞もダービーも菊花賞も大阪杯も天皇賞春宝塚記念も天皇賞秋もジャパンカップも有馬記念も全部勝ってきたじゃん! これの何処が失敗何だよトレーナー!

「最後の夏合宿の時上振れ切れなかったからな…メガホンも青汁も備えてたのに1度しか強トレが来なかったし終わり迄に上振れ切れるかとも思ったが結局駄目…クラシックの終わり際まで上振れてた分期待したんだかな…残念だよ…トウカイテイオー」

待ってトレーナー! 僕にはもうトレーナーしかないんだよ! だから待って! 行かないでよトレーナー…!

「じゃあなトウカイテイオー、また別の君の育成に取り掛かせて貰う…」

嫌だよトレーナー! ボクを置いてかないでよ!! トレーナー! トレーナーああああ!!

――レース場――

『さあ、最後の直線、先頭を往くのは8番イノリ現在後方との差は1バ身程、このまま逃

げ切れるか?』

今度こそ…今度こそ勝つんだ!絶対に負けるかああああ!!

『おっと、後ろから3番リボンヘッズが猛追、遂に初勝利なるか』

嘘でしょ!?バ群を捌ききつたの!?

「アタシが…勝つ!!」

い、嫌だ…負けたく…負けたくないいいい!!

『8番イノリここで更に加速、これは完全に2人のマツチレースとなりました』

「アタシはここを勝ってスプリンターズステークスに出るんだ!だから…そこをどけええええ!!」

『リボンヘッズとイノリ並んでゴールインリボンヘッズが僅かに体勢有利か?判定まで暫くお待ち下さい』

お願い…勝たせて下さい三女神様…もう私には後が無いんです…だから勝たせて下さい…お願いします…!

『着順が確定しましたー着は…リボンヘッズですハナ差2着は〜』

あ、ああああ…負けた…負けちゃった…

「いよつつしやあ!!初勝利!遂にアタシの時代がキター!!」

隣でリボンヘッズちゃんが喜んでるけどアタシの気分は最悪だ…

これで5連敗目…メイクデビュー戦では2着で期待されてたけども結果はこの有様…  
…これじゃあ父さんに顔向け出来ないなあ…

そう思っていると、トレーナーがこっちに来る

「イノリ、また駄目だったか…」

「ごめんトレーナー…期待に答えられなくて…」

「良いんだ…でもなイノリ、そろそろ不味いかも知れん…」

え？

「…9月迄に未勝利戦に勝てないならこの学園から退学になる」

嘘…何とか出来ないの?トレーナー?

「流石に学園のルールには逆らえ無いよ…イノリ、最悪の事態も想定しておいた方がいい…」

分かったよトレーナー考えておくよ…

「すまん…イノリ」

良いよ、気にしないで！

「じゃあ俺は1回出ていく、顔は洗ってこいよ…」

そう言うとトレーナーは出ていった…

はは、結局は高望みだったのかな…父さん見たいな立派なヒトになりたい何ておぼろげな目標しか持てない私が勝つなんて…

退学したくないよ…私はまだ何にも成し遂げて無いのに…！

—  
???  
—

「ありゃ？ここは何処や？確か超大物が29000〜33000のゴリゴリのステイヤーになつて発狂してた様な？」

「ここは…確かボクはトレーナーから契約解除されて…っ！」

あれ？ここは夢かな？それにしてはリアルすぎる様な…

『3人とも…聞こえますか？』

「えっ？」

えっ何、頭の中から声がする!?

『貴女達3人は3女神から選ばれました』

「は？三女神なんじゃそりゃ？」

「…3女神様がボクを?」

え!? 3女神様!? 実在してたの! いや有り得るか! やつぱりこれ夢何じや…

『3人にはこれから1つの体で生活して貰います』

「は?」

は? え? チョットナニツテルンデスカ?

『イノリ、これから貴女の中に2人の魂が入ります…覚悟しなさい』

え!? ちよつとまってぎやああああ!?

「おわ!? すみこまれりゆ!」

「うわ!! ボクの体が知らない子の中に!」

か、体の中に入って来るんだけど!? まって! ちよつとまって! 嫌ああああ!?

---

— 部屋 —

うわああああ!!?

「ちよ、うるさいんだけど…」

あ、ごめんキングオウちゃん、ちよつと嫌な夢見ちやつてさ…

「そう…それじゃ私先行ってるよ、汗凄いから先風呂入ってからにしなよ？」

え!?嘘!?クンクン…ホントだ汗臭!?シャワー浴びなきや…

『ぐええ、変な夢見たぜ…吸い込まれるとかどんな夢だよ…』

『うう…まさかボクが吸い込まれる夢を見るなんて…』

あるえ?何か声がするぞお?

『ん?ウエ!?カラダガスケテル!』

『あれ?ボクの体じゃない?』

あのお…お二方はもしかして先程夢の中に居た2人…ですか?

『ん?君夢の中に居た、あれ?じゃあこれ…』

『あくボク分かつちやった…』

『あの夢正夢だったのか…』

『そつか…ボクトレーナーに捨てられたんだね…』

え〜と…何か一周回って冷静なったんで取り敢えず自己紹介から始めませんか?

私は取り敢えずわけわからないこの状況をどうにかする為動き出した。

# 憑依装着！

—お部屋—

一先ず状況を整理する為に自己紹介する様に誘導した、そうすると2人？（2霊？）は切り替えたのか私の方に向き直り各々始める

『うむ、流れるにまず俺からだな、俺は天月駿あまつきしゅん気軽にアマでもシユンとか気楽に呼んでおくれ、後好きなゲームはウイポ、趣味は競馬だ、馬についてもそれなり分かるつもりだから金掛けるんなら是非任せてくれ』

『ボクはトウカイテイオー、見れば分かるだろうけどボクも君と同じウマ娘だよ、ボクの事テイオーって呼んでくれて構わないよ、こうなる前まで走ってたからレースで困った事が合ったら何時でも言ってるね？分かることも有るだろうから』

そう言つて2人は名前と色々な事を教えてくれた、天月さんの方はウイポ？ってゲームと競バ？って物がよく分からないけどウマに詳しいなら頼りになる人かな？

トウカイテイオー先輩？はレースに出てた人だから凄く頼りになりそう、と言うより

直ぐにでも頼りたい。

あつ、私も自己紹介しなきゃ…

わ、私の名前はイノリって言います！お2人を巻き込んだりやって本当にごめんなさい！…ここ、これから2人には迷惑を掛けますけども宜しくお願ひします！

『こちらこそ宜しく頼む、後謝んなくても別に大丈夫だから…悪いのは三女神とか言う変な奴だし』

『こつちこそ宜しくね？三女神が何考えてるかはボクにもさっぱり分かんないけどこれから一緒に頑張ろうね？』

は、はい！これから一緒に頑張つて行きましょう！

『おう、所で話が変わるんだけど良いか？イノリ』

はい何でしょうか？

『ウマ娘って何？馬の擬人化か何か？』

『え？』え？

『…その困惑ぶりだと常識何だな、ウマ娘って…1度知識の擦り合わせの為に情報交換

でもするか?』

えっと、やりましょうか…

『ボクもさんせー、今やって置かないと後々大変な事になりそうだし』

—30分後—

『成程ね、だいたい分かったわ、まさか馬が消えてウマ娘って言う女の子に置き変わってる何てな、常識が崩れそうだぜ…』

『ボクも驚いたよーまさかウマ娘が居なくて変わりにうまって言う生き物が走ってる何て驚いたよ、後うまの勝ち負けを賭けたりするゲームがある事もね…』

私も驚きましたよ天月さん!まさかウマ娘の代わりにうまって生き物が走ってる何て!今度詳しく教えて下さい!

『お、おう、別に良いけど随分がつつくな?』

ええ!ウマ娘の並行世界の姿かも知れないと考えると興味深いですから!

『ボクも時間が合ったら教えてよ、所でアマツキ?』

『何だテイオー?』

『もしかしてボクと同じ名前のうまとかも居たの?』

『おう、居たぞ』

『え！ホント!?どんなうまだったの?』

『そうだな…俺も映像でしか見た事は無いがイケメンで強くて…かつこいい馬だったぞ!』

『へえ、そうなんだ、ねえねえ!じゃあカイチョーは?』

『会長?…あ、もしかしてシンザンか?』

『ちがうわい!シンポリルドルフだよ!』

『そつちだったか、てかこの世界だと偉い立場なのか、まあいいか、あの馬も映像でしか見れなかったがめっちゃくちゃ強い馬だったな、俺が生きてる時には日本での最多G1勝利数も塗り替えられちゃったが俺の中では記憶に残る皇帝その物だけ』

『ほうほう…じゃあじゃあ、エアグルーヴは?』

『エアグルーヴか?エアグルーヴは…』

2人だけの世界に入っちゃってる…ってあれ?Laneの通知だ、何何?

【来るの遅いけど何やってるの、もうすぐ授業始まるよ?】……………

わ、忘れてたあ!?

『…んでその強さから…ん、どうしたイノリ?』

『どうしたの?そんなに慌てて』

ヤバイやらかしたあ!? あわわわ、このままじゃ遅刻しちゃう遅刻しちゃう…!

『そりややべえな、悪い! 無駄話で引き留めちまった!』

『こつちもごめんイノリ! ボクも熱くなっちゃって周りの事考えて無かったよ』

わわっ! 良いん良いんです! 自業自得で謝らないで下さい!

とにかく早く学園に行かないと…!

—教室—

はあ…はあ…はあ…間に合って良かったあ…!

「ん、お疲れイノリ、珍しく遅刻しそうだったけど何か合った?」

いやあ…シャワー浴びてさっぱりした後寝ちやって…ありがとうオーちゃん

「そうだったの、にしては匂い取れてないけど」

えっ…いい、いやあ慌てて走ってきたから汗かいちやったかなあって…

「…怪しいけどそう言う事しておくわ、所で教科書は?」

そこは大丈夫だよオーちゃん! ちゃんと置き勉強してるから!

「そう…ならいいんだけど」

『ほーん…ここが教室か、物の見事に女の子しか居ないな』

『当然でしょ…ボク達ウマ娘は女性しか産まれないんだから』

『そういやテイオーは授業は何処まで分かるんだ?』

『うーん…全部かな?ボクのトレーナーにありとあらゆる教材頭に詰め込まれたし…』

『そりや凄いな…辛くなかったのか?』

『根性トレーニングと比べれば天国見たいなモノだよアマツキ君』

『そうなのか…逆に勉強より苦行な根性トレーニングって何なんだ…』

また2人の世界に入ってるし…あ、先生が来た。

「皆さん席に着きましたか?これから出席を取りますよイノリさん?」

はい…

「今日も元気に返事してくれてありがとうね?ウミノタマシイさん」

— 部屋 —

はあ…今日はトレーニングもする気が起きない…ずっと眠りたい…

『随分とお疲れだなイノリ、まあ俺は幽霊だから気楽にやれたが』

『ボクもいきなり指名されて慌ててるイノリの姿が見れなかったから退屈しなかったよ』

お2人は気楽そうですね…私は全然気楽じゃ無かったですけど…

『そりゃあねえ…仕事に行かなくて良くなつたしそりゃあ気楽なもんよ、無職は最高だぞいー』

『…ボクも一緒かな、何時もトレーニングばかりで休み何て1度も無かつたし』

え、テイオーさん休み無かつたんですか!?体は大丈夫だったんですか!?

『うん、疲れてた時はトレーナーがロイヤルビタージュース?とタフネス?だっけ、うん、そんな名前の疲れが取れる飲み物を渡してくれてたから大丈夫だったよ、後はお守りとメガホンとケーキかな?』

青汁??ドリンク??えっと、何かヤバいモノとか入ってませんよね?

『俺もイノリと同意見だ、明らかそれヤバいクスリとか入ってるだろ、飲んだだけで治るとか有り得ねえモンエナでも眠気覚ましに限界だぞ』

『まっさかあ、トレーナーから聞いたけど学園のトレーナー専用の購買に売ってるちゃんとした物だよ』

ええ…テイオーさんの世界のトレセン学園はどうなってるんですか…そんなもの流通しちゃってたら飲んだ物勝ちじゃないですか…

『この世界の技術力はすごいな…』

私も初耳ですよそんなもの…今度トレーナーに聞いてみます…

あ、トレーナーからLaneだ、何何? [次の未勝利戦何だが9月の第一週にある新潟の芝1200で大丈夫か?]…よしつ、[大丈夫です、所でトレーナー、ロイヤルビター ジュースって飲み物知ってますか?]

【ロイヤルビタージュースか、分からないけどウマバの新作か?】

【そうですか、ありがとうございます、因みにウマバの新作じゃないです】つと、テイオーさん、トレーナーに聞いてみたんですけど知らないみたいでしたよ?

『嘘…ボクカップケーキと一緒に飲まされたはず筈何だけど…』

多分テイオーさんの世界とこっちの世界とで何か違うんじゃないんですか?

『そうなのかな…』

『多分そうだろうテイオー、じゃ無きやトレーナー?つてのが知らん筈がねえ』

そうですね…あ、所で次の未勝利戦の予定が決まりました、9月の一週目に有る新潟の1200です。

『おお!本当か!イノリはどうするんだ?』

私ですか?私はどうせ行っても勝てないんで良いですよ…ぼちぼちトレーニングに励んで負けてきます…

『ええ…イノリはそれでいいの？勝ちたいって思わないの？』

はい…もうかれこれ5連敗ですからそろそろ潮時かなって

『イノリ…諦めたらそこで試合は終わりだぞ？』

でも私の実力じゃ絶対に勝てませんし…もう私も勝負事に疲れたんですよ…

『…三女神とか言う奴が一緒に生活しろってこう言う目的だったか…』

え？突然顔色変えてどうしたんですか天月さん？テイオーさんも…

『イノリ、確かに今迄は1人で勝てなかったかもしれないんだが今は違うだろ？』

『そうだよイノリ、それに最初に言ったでしょ？レースで困った事があつたら何時でも聞いてねって』

天月さん…テイオーさん、私…勝てるでしょうか？

『ああ！勝てる！俺は馬の育成ゲームでG1馬を排出しまくってるんだ！その俺が言うんだ！』

『ボクも何時までも落ち込んでられないからね！今度はボクがイノリのトレーナーになるよ！一緒に勝とうね！アマツキ！イノリ！』

つつ！はい！テイオーさん！天月さん！

『よーし！それじゃ明日から練習開始だよ！イノリ！』

分かりましたテイオーさん！

『よっしや!じゃあ初勝利目指して頑張るぞ!』  
『「オー!」』

## 憑依覚醒！

—グラウンド—

あれから少し日が経ち休日の日、私とテイオーさんと天月さんの3人でグラウンドのターフコースに来て特訓を始める事になりました！

『よーしイノリ、今日からトレーニングを始めるけど準備は良い？』

はい！テイオーさん！天月さん！

『おっしイノリ、取り敢えず1200のタイムから見てください！』

分かりました！

じゃあ走って来ますね！

『おっ、まてい！俺たちじゃタイマー持てぬから計測は自分で頼む！』

はい、分かりました天月さん！

『それじゃ、ボクたちは後ろで見てるから、頑張つてね〜』

はい！テイオーさん！

ぜえ…はあ…ぜえ…

『よし、タイムを見せて貰うぞい、イノリ!』

コヒュー…は、はい、天月さん…

そうして私は天月さんにタイマーを見せた

『どれどれ…1分13秒か、極端に遅くは無いがちとキツイな…』

『うん、そうだね、ボクは短距離は走らなかつたからキツくは言えないけどこのままじゃちよーつと厳しいかな?』

『テイオーもそう思うか…』

うっ…やっぱり無理なんですか? テイオーさん、天月さん…

『待てい! そう落ち込むなってイノリ! 何のための俺たち何じゃ! こっから鍛え上げる』

んだよ！ミホノブルボンすつぞ！』

え？ミホノブルボン？どう言う事ですか？

『ブルボン？…つてアマツキ、もしかして坂路漬けじゃ…』

え？坂路漬け？え？

『お、やっぱり同期見たいなもんだし気が付いたか、そうだ！坂路漬けだ！やはり坂路…坂路は全てを解決する…！』

ええ！今から坂路ですか！？流石に無理ですよ天月さん！倒れますって!?

『ボクもイノリと同意見カナ？流石に全力で走った後に坂路は足が壊れちゃうよ…ボク見たくビタージュースを飲んでる時ならともかくとして…』

『ありや、テイオーに言われちゃ仕方ねえか、悪いなイノリ…ウマ娘の感覚はまだ分からなかったわ…取り敢えず今日は休日だしそこ迄キツくする事は無かったな、すまねえ…』

いえいえ！天月さんは悪くありませんよ！元々私から言った事なんですから！

『すまんなイノリ…取り敢えず今日はここまでにしておくか…明日から坂路漬けにするけど大丈夫か？イノリ』

はい！大丈夫です天月さん！

『よし!なら今日は英気を養って明後日の朝方坂路特訓を初めつぞイノリ!』

はい!天月さん!

『何かあつたら言つてねイノリ?ボクもした事は有るけど坂路往復は足にも結構来るからね?』

はい!テイオーさん!

『おつし、じゃ食堂行つて飯食いに行こうや、腹が減つては戦ができません!』

はい!つてうわ!?

『どうしたイノリ?つてうわ!?!』

おおぅ…大丈夫かイノリ、怪我無いか…んん?声高くね?

『はい、大丈夫です…まさか何も無い所で躓くなんて…ここがまだ芝で良かったです…』

『そうだねイノリ…つてあれ?イノリ透けてない?』

『え?あ、本当だ透けてます!と言うより天月さんは!?!』

『あれ、ホントだアマツキが居ない…もしかして…』

うお!?!俺の体がイノリにナツテリユ!?

『あ!?!天月さん!もしかして天月さんですか!?!』

おお、そうだぜ…マジか!…ヤバくね?

『やばいですよ！オウちゃんこう言うのに鋭いですから人格が変わったりしたら絶対感  
ずかれますって！』

うーんだとしたら不味いな…ウマ娘がどう言う種族なのか詳しく無いが多重人格者  
だとバレたら間違いなく精神病院行きだ、レースどころじゃねえ…

『あわわわ！どうすれば…』

『ねえアマツキ、イノリ？』

何だ？『なんですか？テイオーさん』

『ボク何となく何でこうなったか分かったんだけど試しても良い？』

なぬ！本当か！なら頼む！早くイノリの体に戻してあげたいんだ！

『うん、じゃあそのまま立っててね？ほいっと』

え？テイオー何でこっちに突っ込んでおわ!?

『つていきなり突っ込んで来てどうしたんだい…つて声戻つとるがな！もしかして…』

ふーん…やっぱりかあ、アマツキ、イノリ、取り敢えず何でイノリの体にアマツキが  
入ったのか大体分かった？

『はい…分かりました』

『おう、大体分かったぜ…これ結構使えそうだな?』

うん、ボクもそう思うよアマツキ、まあそれは今度話し合うとして…はいイノリ、この体返すね!

『え? んむ!?』

いきなり何して…あつ! 体が戻ってます!

『いやあ声が変わるのって結構不思議だね、ボクがボクじゃ無いみたいだったよ!』

『俺も一緒だぜテイオー、今度体借りて良いかイノリ? ゲーセン行きてえ!』

『ボクも良い? イノリ? 久々にはちみーが飲みたい!』

えっと、取り敢えず食堂に行きませんか? 私お腹が空いちやつて…

『あ、そうだった俺たち最初から食堂行くんだった! 悪いイノリ! とつとと行こうすぐ行こう!』

『ボクもごめんイノリ…久しぶりにはちみーを舐めれると思つてつい…』

別に気にしないで良いんですよ2人とも! ひとまず食堂に行きましょう! そこでどうするか話し合いませんか?

『悪いなイノリ、そうするか…』

『うん、そうしょつかイノリ』

よし、じゃあ行きましようか、テイオーさん、天月さん

『うん』

そうして私達は食堂に行くのでした：